

# 学 友 会

会報

## 第11号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301 ☎0574-26-7121



旧実習棟



新実習棟



## 愛知県支部設立

# 会報発刊にあたって



中日本自動車短期大学

学友会会長

丹 地 章 夫

本年も会報発刊の時期となりました。

会員の皆様方には、増々御健勝で御活躍の事と、お慶び申し上げます。本年度の事業計画も順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

私が二代目学友会会長に就任させて頂きましてから、早や一年の月日が過ぎてしまいました。この一年を振り返ってみますに、念願の愛知県支部設立が現実のものとなった事が一番の大事業であったと思われまふ。設立にあたってあらゆる方面から粉骨砕身、努力して下さいました関係各位に対し厚く御礼申し上げますと共に、愛知県支部の今後益々の御発展を心から祈念致しております。

「継続は宝なり」細く長くを目標に、より結束の固い支部となら

れます様、期待しております。

学友会の結束をより強固なものとする為には、縦横のより密接な関係が、必要不可欠である事は言うまでもありません。更にその為には、一つでも多くの支部設立が望まれます。学友会是谁かがやるだろう。ではなく自分がやってやるう位の気概を持ったファイト溢れる一人でも多くの若い力を持っています。その為の援助、助言は惜しみません。我こそは、と思う方、どうぞ本部まで御一報を、古き良きものと調和しつつ、新しい時代に合った私達の学友会を創って行くのではありませんか。

一年後には、二十五周年という記念事業も控えており更には、学友会館設立という大事業もかかえております。

それぞれの支部の皆様方には、

色々と御力添えを頂かなくてはならない事も、多々あると思います。学生時代にはできなかった違う意味での社会勉強を学友会を通して御礼申し上げます。

やってみようではありませんか。会報発刊にあたり御尽力頂きました関係諸兄に対し、心より厚く御礼申し上げます。

## 理事長の挨拶



神野学園

理事長

宮 本 一 三

私は平成三年十一月、皆様方の母校、中日本自動車短期大学ほか三校を容るる学校法人、神野学園理事長に就任しました。中日本短大は当学園の中核的存在であり、その伝統と校風、教育内容は学園の誇りであります。特に優秀な多数の卒業生が全国各地で活躍し高い社会的評価をうけていることは、在学生にも大きな自信と励みを与えてくれています。

ところで戦後の日本の自動車産業の発展は目ざましいものがあります。私が留学していた昭和三十年代の初頭は、日本車ではアメリカのハイウエーはオーバードライブ

して走れないと言われていました。私の友人(大使館員)も愛国心から(半ば強制もされたようですが)日本車を乗っていました。その苦労ぶりは目をおおうばかりでした。それが最近では日本車はアメリカでも一番人気の高い車となつています。自動車に関係する多くの方の努力のたまものですが、とりわけわが国の中日本短大卒業生の皆様の果された役割は大きいと思います。

今日の近代文明は「自動車文明」と呼んでも過言ではないと思います。自動車産業を中心に各種の産業、文化が幅広く発展しています。

今後色々な輸送手段が開発され、発展するとは思いますが、おそらく次の二十一世紀も自動車産業中心の文化であることには変わりはないと思います。頑張ってください。新しく学友会の会長になられた丹地章夫様を中心に会員相互の親睦をはかりながら「母校の一層の発展」のために御盡力を下されますようお願い申し上げます。最後に会員の皆様方の御健勝をお祈りします。

\*\*\* 経 歴 \*\*\*

昭和6年 兵庫県に生れる

昭和30年 一橋大学経済学部卒業

昭和35年 同年、大蔵省入省

米田ハワード大学留

学、マスター・オブ・

アーツ(修士)並びに、

ドクター・オブ・フィ

ロソフィ(経済学博士

の称号を授く

昭和37年 奈良県・桜井税務署長

昭和41年 国際通貨基金へ出向

(インドネシア政府経

済顧問)

昭和49年 国税庁直税部法人税課

長

昭和54年 大蔵省国際金融局総務

課長

昭和55年 大蔵省大臣官房審議官

昭和56年 大蔵省名古屋国税局長

昭和57年 大蔵省を退官

## 学長の挨拶



学長  
宮岡達志

学友会(卒業生)の諸君、お元気で御活躍のことと存じます。我が中日本短大も創立二十五周年を迎えました。私も学長に就任してまだ二年ですが、キャンパスの整備を完成させなければならぬと強く決意しています。新教育棟・新実習棟・総合グラウンド等の完成につづいて、懸案の学生ホール・学友会館・図書館・本館事務棟等の新建設を実現させなければなりません。

また、本年はいよいよ十八才人口減の始まる年であります。これから向こう約二十年間十八才人口は減少が続けます。ですから、マスコミは「大学に、いよいよ冬の時代到来」と書きたてています。有名四年制大学でさえ、これを選けることは出来ないのですから、地方の一学科の短大である中日本短大にとっては、大変厳しい時代が始まる訳です。しかし、どんなに厳しくても生き残らなければなら

ないのです。そのためには、既設の自動車工学科を益々充実させることが大切であると考えます。

本学は機械工学科の短期大学として、自動車整備技術教育を中心に高等教育の一端を担ってきた訳ですが、現在の三コース——電子制御を中心とした電子工学コース・車体整備技術の専門的教育を行なう車体整備コース・それに自動車工学コースの三コースの施設設備を充実させます。そして、その上に立って、二年課程の専攻科を開設します。そのために、博士号所有の若い研究者を採用し、新しい教員組織の充実にも着手いたしました。

なお、本学の姉妹校の岐阜医療技術短大が看護学科の認可をとりましたが、完成年度を迎えるまでは、同一法人(神野学園・中日本短大)が新規に学科増や改組転換を申請することは出来ません。従って、「先ず、専攻科を作ろう」とする訳です。勿論、将来の学科増も展望の中に、置かなければならないと存じます。

こうして、既設の自動車工学科を充実させ、専攻科を作り、それをバネにして、新しい発展を図る。そのためには、学友会の諸兄の絶

大な御支援が必要であります。母校の生き残り、いや発展のために、是非、お願い致します。

また、中日本短大は中国の大学とも友好関係を深め、本年もまた、武漢工學院の何天明先生と湖北汽車工業學院の何建華先生を迎えました。両先生は、実習教育を中心に熱心に、勉学に励んでいます。いずれにしても、中国との国際交流は、一九八四年一〇月以来八年間にわたります。その間、多くの研究者を受け入れ、その教育指導に当たってきましたが、このような地道な活動が両国の友好関係を固める上で、重要な役割を果たす訳です。

なお、本年は、一年生に外国人留学生八名(うち女子留学生一名を含む)・二年生に八名の外国人留学生、従って合計一六名の外国人留学生を受け入れ、教育しています。

このように、中日本短大は、多方面にわたって、教育活動を展開しています。その根底にあるものは、自動車工学ですが、それを、支えるものは、やはり、技術を生かすのは人間であるという思想です。

## 愛知県

## 支部について

支部長 杉山武文

学友会の皆様いかがお過ごしでしょうか?

さる四月二十六日に行われました、愛知県支部設立総会の席上役員選出に於いて、愛知県支部長という大役を受けることになりました杉山武文でございます。

さて、現在愛知県では約二七〇〇名の卒業生が在籍していますが、各個人同志での付き合いで終わっているのが現状です。私も、五年程前から他の仲間と共に前学友会会長の本田さんより、ご指導を賜わりながら学友会活動を行なってきましたところ沖縄県、広島県、岡山県、神奈川県各支部について五番目の支部として設立できましたことをご報告いたします。

当面の課題としては、学友会の最大の目標にもありますように、会員相互の親睦をはかることとして年一回以上の総会及び同窓会の開催を主に行なっていきたいと思っております。若輩者の私ですが、宜しく願ひ致します。

最後になりましたが、愛知県支部総会開催の折り大変お世話にな

りました学友会役員の方々に對して、心より厚くお礼申し上げます。

## OB近況



日産自動車(株)  
十四期生  
山口達也さん

高校三年の秋、偶然読んだ車雑誌の記事で中日本を初めて知り自分に一番合っていると思い入学。あれから十二年が経ちました。遠い地での独り暮らしに多少の不安を感じてましたが直ぐに沢山の友人が出来、楽しい学生生活となりました。色々と苦勞した講義や実習も今では楽しい想い出となっています。様々な所へドライブしたり遊びに行った友人達とは今でも時々酒を飲んだり旅行したりしています。

就職時には勤務地の不安から他の会社も考えましたが先生の勧めにより今の会社を決めました。希望通りの勤務地、職種となり大変感謝しています。

現在はエンジン開発部門でピストン・クランク等の部分が各新型エンジンに十分な性能を与え適合しているか実験を繰り返していま

す。非常に高価で気難しがり屋の試作エンジンでの実験が多く苦労も絶えませんが、職場の多くの仲間を支えられ頑張っています。そして、此等のエンジンが世に出て好評な話を耳にしますと苦労は必ず報われると嬉しくなります。残念なのは中日本同様女性が少ないのと中日本の後輩が今は居ない事です。



青年海外協力隊  
(現中日本自短大)  
十九期生  
栗木江一さん

私は中日本を卒業してから、ディラーで一年勤めた後、青年海外協力隊に参加しました。派遣された期間は昭和六十三年七月から平成二年七月まで二年間、パプアニューギニアへ自動車整備隊員として派遣されました。ご年配の方々の中にはニューギニアと聞けば第二次世界大戦を思い浮かべる方がいらっしると思います。今でも日本軍の爆撃機の残骸や司令部のあった洞窟などが残っており、年に何回かは日本からの慰霊団がこの地を訪れます。

赤道直下のこの国、日本の一・四倍の面積の国土に、様々な人種と七百以上の言語が入り混じって

います。部族内の結束は固く、困っている人がいればみんなで助け合う習慣があり、この国では飢えに苦しむ人がいません。このような習慣を現地ではクントークシステムと呼んでいます。つまり同じ言葉を話す人は仲間だという考え方を持っているのです。ところでこの国の人々の財産は何でしょうか。当然お金もそうですが、それよりも大事にするのは豚なのです。結婚するための結納に何匹かの豚を贈ります。また紙幣には豚がデザインされています。国によって価値感が違うのは大変興味深いことです。この国は現代と石器時代が混在しています。例えば、電化製品は思ったより普及していませんし、自動車も新型車が結構走っています。そうかと思えば局所だけケースで覆い素っ裸同然で歩いている人もいます。時々、弓矢や手銃での部族間の闘争もあります。

帰国してから二年が経ちました。あの国で体験したことは自分にとって非常にプラスになることばかりでした。誰か、自分も協力隊に参加して異文化に触れてみませんか。絶対に損はないと思います。



岐阜ダイハツ  
販売株式会社  
二十一期生  
渡辺雅一さん

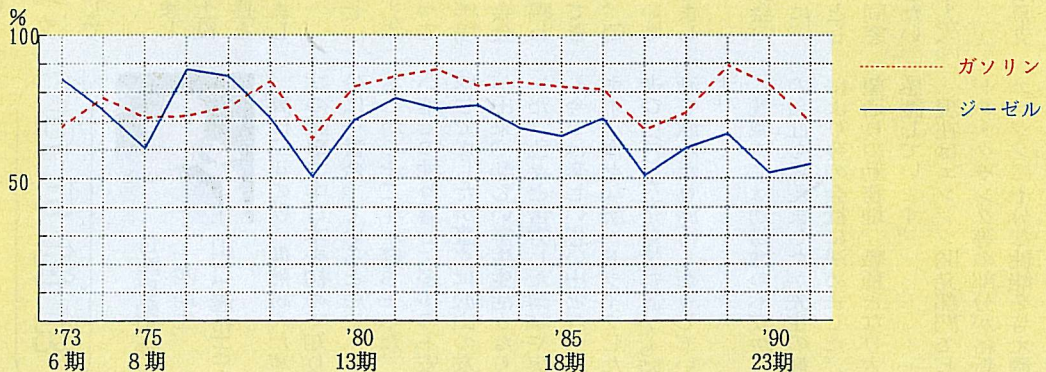
自分は、車が好きで中日本へ入学しました。当時の中日本は、丁度実習棟の建て替えで、実習は代わりの教室で行いとても不便だった事が思い出されます。二年の時に実習棟も完成し、コンピューターなど最新設備が整い、実習授業などに興味を持ちました。又自動車研究会の行事に毎回参加をして工場見学会でメーカーの人から自動車に関する講演を聞き、車に対してますます興味が沸きました。レース関係も好きで、鈴鹿サーキットでオフィシャルの手伝いをし、間近でレーシングカーを観て、あの迫力には驚きました。卒業して四年、今の仕事は趣味が職業であるので、とても毎日を楽しんでいます。自分の下にも後輩が続々と入社をして、今では人に教える立場で中日本で教えて頂いた事がとても役立っております。お世話になった先生方に厚くお礼申し上げます。まだまだ自分は勉強する身なので、ダイハツ検定一級目指して、日夜自分にチューニングを加え頑張っております。

## 認定試験合格率

### 技術研修課

毎年行われる2級整備士の認定試験の結果を報告します。グラフに示すとおりガソリンは80%前後、ジーゼルはばらつきが大きい70%前後であります。

今回の認定試験を分析すると、問題の表現がかなり変わり学生も戸惑った点もあると考えられます。数年前から実力試験を取り入れ、補強講習を行い実力のアップをはかっていますが、期待ほどの成果がでず残念に思っています。OB諸兄の今後の活躍を期待します。



## 本学と中国との 交流について (その2)

事務局長 杉浦 禎宣

### 二 交流提案の『親書』

今年も、何天明先生(武漢工学院自動車工學講師)、何建華先生(湖北自動車工業學院助理工程師)の二人が、中国汽車工業總公司派遣研修生として五月初旬訪日され、熱心に頑張っておられる。

昨年の来訪予定がビザの都合で一年遅れ、今年になって実現したものである。

共に真面目な好青年で、ごく短期の研修ではあるが、必ず役立つ成果を挙げて帰国されるものと信じている。



中国研修生の受け入れが年中行事化してきた感さえする昨今であるが、その「出会い」については

既に(その1)でのべた。

地球上の全人類のうち四分の一が中国人という現実を直視し、年ごとに中国からの留学生が増えつつあることを踏まえて本学の今後に思いを馳せる時、単なる民間外交としてだけでなく、本学の将来のためにも重要な意義を持つものであることを認識し、良好な社会関係を創造するチャンスとして生かさなくてはならないと肝に銘じている。

さて、一九八四年十月、七名からなる「考察団」の熱烈歓迎で始まった「日中交流」であるが、翌八五年は中国側からの招聘に対し、中村清学長(当時)夫妻に大須賀教授と私が随伴してこれに応え、北京、西安、桂林、成都、武漢、上海等の各地を巡った。

三週間弱の旅行であったが、中汽總公司からの友好的な安排(手配・指令)のお陰で、日常の世話係りとして熊文洲氏(武漢工学院自動車工學部工程師)八八年五月来訪)と日本語の流暢な王琰女士(武漢工学院外国語科日本語教師)のお二人に最後の上海空港を離陸するまで付き添って頂けたのはもちろん、各訪問地空港では送迎車が待機し、初めての訪中でも何ん

自由なく旅行することができたが、連日のパーティィ攻めに些か閉口したことも事実である。

日程上の都合で十堰の湖北自動車工業學院を訪問出来ず残念だったが、中国側の熱烈歓迎ぶりは大変なもので、遠来の客を持て成す受入れ側の姿勢として銘記しなければならぬ感激であった。

翌八六年、やはり自動車技術会(SAE)を通じて中汽總公司の第二次考察団の本学訪問否について意向打診があった。

今度は中汽總公司李陸賓副總經理(次席副總裁)日本の事務次官クラスに当たる)、中国SAE吳正若副理事長等を含む中国自動車界の大物ぞろいである。

前年の訪中でSAE吳正若副理事長とは面識もあり、直ちに快諾の旨を回答、三月二六日本学訪問が実現、友好はさらに前進した。しかし、順調に進展した日中友好の陰には、武漢工学院院長陳立国先生が四月二日癌で急逝されたことなど悲しい訃報もあった。

明けて八七年、中汽總公司から長春訪問の招請状が届き、中村清学長(当時)は五月一日から一週間の旅程で団長中島達夫教授(当時)に大須賀・田中両教授を加え

た三名を差遣、中汽總公司李陸賓副總經理宛に『親書』を託した。

「日中西国の自動車工業教育界の友好提携と交流を促進するため、中国側の若い技術者に対して本学での研修の機会を提供する」という内容のものである。

具体的研修交流はこの『親書』から始まった。



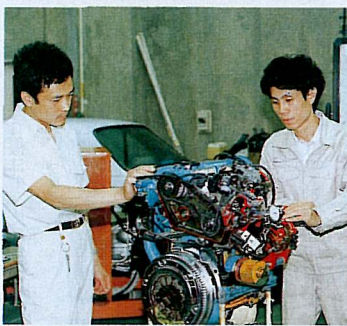
何天明先生・何建華先生私達二人は中国汽車工業總工司の派遣により、中日本自動車短期大学で三か月間研修を受けることとなりました。

日本の皆様のお陰で、異文化に馴染みながら様々な困難を乗り越え、恵まれた環境の下に研修出来ること心より感謝して止みません。日本は自動車の大国であり、最先端の技術を歩んでいると聞いておりましたが、学生に対する自動

車勉強の為の設備が大変整っていることには驚かざるえませんでした。又、中日本自動車短期大学での研修や姉妹学校での見学を通じて、中日本自動車短大は経験豊かな教授陣、充実した施設、設備によって高度な教育を行っていることがわかり、帰国してからも私達の仕事に非常に参考になると思います。

私達は研修を通じて、自動車の技術を勉強するだけではなく、多くの日本人達と友達になり、日本人の仕事に対する態度や責任感をも学ぶ為に一生懸命に頑張りたいと思います。これによって中日友好の為に少しでも寄与出来れば喜びの上もありません。

最後に、中日本自動車短大のますますのご発展と中日の子々孫々の友好を衷心にお祈りします。



# 担当教員



栗木先生



中川先生



久世先生

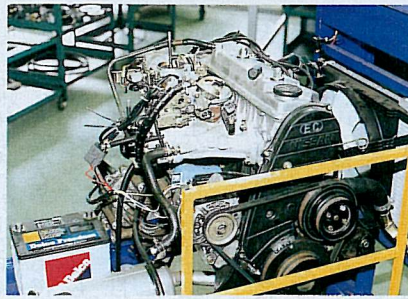


主任 中山先生

## 実 習

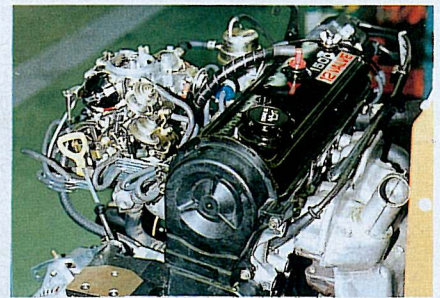
### (ガソリンエンジンI) の 紹 介

自動車の進歩に伴ない実習授業内容・教材等も時代に合ったものが必要になり、ガソリンエンジンI(前は一年ガソリンエンジン)も、ニッサンE15型(写真1)と、トヨタ3E型(写真2)エンジンへと教材・内容を変更したので、ここで紹介をします。



(写真1)

まず、分解、組み付け、始動をE15型エンジンで行ない、エンジン調整、測定を3E型エンジンで行なっています。



(写真2)

総合的な教育内容としては、ガソリンエンジンの基本的な構造及び作動が理解でき、また、テストの取扱いを通してエンジン調整・故障探求の基本的技術、知識を学べるようカリキュラムが組まれています。

では、もう少し細かく見ていきますと、分解・組付けで使用しているE15型エンジンは、4気筒・一五〇〇ccで非常にコンパクトで基本的なエンジンであり搭載車はバルサやサニーなどに使われています。実際の授業展開としてはこのエンジンを主体とし4サイクルの作動確認や分解・組付けの手順、あるいは、それに共なる工具の正しい使い方などをマスターし

後は、補機類の構造、働きなどを部品名称などを通して学んでもらい、また、最終的には、組立てたエンジンを、始動することによって、始動・点火装置の配線を含めた回路の確認を行っています。学生にとっても、非常に理解しやすい、また興味をわく授業とも言えるでしょう。



さて、次にエンジン調整ですが使用しているエンジンは、トヨタ3E型エンジンです。このエンジンはカローラII、コルサに搭載されていた前輪駆動車用のエンジンです。このエンジンを使用してバルブクリアランスの調整・ドエルタコテストやタイミングライトを使用しているアイドリング調整を学びます。エンジンスコープとオリ

ロスコープを使用して点火波形の確認も行っています。

その他測定に使用する器具は、コンプレッションゲージ・マイクローメータ・シリンダゲージ・プラスチックゲージ等です。測定では特にシリンダ内径とピストン外径の測定に重点を置いています。ここで学んだことは二級整備士の講習にも役立つと思います。



この様に、ガソリンエンジンIにおける実習内容は、ガソリンエンジンを最も基本的な観点から押さえていき、点検調整などで、整備技術を養う場として、また自動車業界のみならず多方面にわたっても就職していくことができるよう教育しています。

## 恩師からの

## メッセージ

講師  
有富 矩夫

学友会の皆様には、今回会報第十一号発刊となり心よりお祝い申し上げます。

田畑の中の母校も開学より二十五年の歳月が過ぎ去りました。

思えば四十三年二月、私が奉職した頃はノコギリ形ストリート吹き実習場でした。

当時会員の多くの方々は、厳しい環境（霧下の寒さ、サウナ風呂の中にいるような夏の暑さと流れでる汗、排気ガス、騒音等）に耐えての実習授業でした。

実習棟が、平成元年度に完成し、実習の環境はある程度設備関係では向上して来ましたが、しかし今年の学生数の増加等は、実習環境が良くなったとは言いがたい状態です。これからもまだまだ実習の環境整備の向上に努める必要があると考えて居ます。

母校の近くに日本ライン下りで有名な木曾川が流れており、会員の中にはこの川を見ながら通学さ

れた方も多いのではないのでしょうか。川の上流では、今が鮎釣りの季節で、川面に竿糸を放れている風景を見ることが出来ます。鮎の友釣りでは、「水の泡を釣る」「足元より釣る」等と申しますが、流れの強い遠くの方へばかり竿を出してしまい、足元の鮎は、後廻しに成り勝ちです。

最近の日本の貿易摩擦を話題にする時、鮎の友釣りと同様に、遠いアメリカやヨーロッパに目を向け過ぎる傾向があり、隣国との交流が、少な過ぎるのではないのでしょうか。アジア大陸の地図を字が逆になる様にして眺めると、日本は、アジア大陸の一部で、付随の小島であることが良く解ります。

日本は、将来アジア大陸との貿易、交通、通信、文化交流等が、増々重視されて行くものと確信して居ます。アジア大陸と日本を海底トンネルで結び、大陸との一体化を図り、日本の主要都市と大陸間に新幹線を走らせ、また車両も大陸との往来ができるようにする。

地理的に無理難題な提案ではないと考えております。皆さんは、如何お考えに成られますでしょうか。例えば、列車で、ウラジオストク、ピョニャン、ソウル、北京、

天津、上海等へ、日本より直接行けるなんて、夢の様な話しかも知れません。海底トンネルで、日本と大陸を結ぶ事が当然無理だとしても、これからは、近隣都市との経済的な交流は、増々盛んに成る様に試みられるのではないのでしょうか。

目をアメリカやECに向けますと、貿易摩擦が年事に拡大し、特に自動車産業は、その代表の様に言われていることは、衆知の通りで、これ以上、摩擦が拡大しないように、調整が急がれている昨今です。

この様な状況の中で、日本の自動車産業界は、模索しながら、安全発展を求められて居ます。皆んなの英知で、大変厳しい状況乗り越えて行かれることと思っております。

少々大きな話題に成ってしまいましたが、社会に輝かしく貢献されているOB諸氏の多忙な毎日の休憩の一時の話題にでもして戴けると幸に思います。

最後に自動車産業界をOB諸氏の活躍で発展させ、明るい展望を作り上げられることを切望し、また、会員各位の御繁栄をお祈り申し上げます。平成四年六月

思い出シリーズ  
宝来屋さん

今回、この会報に出させていただいて、大変喜しく思っております。

第一期生の方々が入学された頃は、私が高校生でしたので、背の高いお兄さん達が、買い物にみえて、胸がどきどきしたものでした。

その時分は、食料品店と言っても、よろず屋みたいでしたが、離れに、二人の学生さんに下宿してもらっておりました。

店を改築して、下宿の部屋も増やした頃が、高校を卒業し、主人と見合をして結婚をした頃です。

昭和五十二年に二人目の子供が生まれた時、下宿を止めてその跡地に今の店を新築しました。

だから最初の頃の学生さん方には、今の店を見ていただいても、思い出していただかせませんでした。うね。

早いもので、来年長男が高校を卒業して、東京の専門学校へ行きたいと言っております。

私の子と、学生さんと年が同じになって、母親として皆様のお母さん方の気持ちが良く分って来ました。

一人で遠い所で、自炊生活して大丈夫のかなど、色々心配しております。

今は、学生さん皆が、自分の子供だと思っております。

「ラーメンを作るなら、野菜も入れなアカンよ」なんて、おせっかいを言ってます。

もう二十年もしたら、今度は孫子だと思っております。

「いらっしやい」

と声をかけていると思います。

今の宝来屋が有るのは、ほんとうに、中日本短大の学生さんのおかげだと思っております。おばさんは、これからも元気でがんばります。

皆様が健康で、楽しい生活が送れます様心からお祈りして居ります。

# 在 学 生

今回は在学生紹介として、日夜活動に励んでいる「ARCN」とレーシングクラブの皆さんに、インタビューしました。

（編…編集者、レ…レーシング部）  
編…今日は忙しいところを、クラブの皆さんに集まってもらいました。早速ですがクラブ員の構成について教えてください。

レ…二年が六人、一年が十六人です。それと、顧問が学生課の拓植さんという構成です。

編…女性クラブ員もいるそうですね。

レ…過去最多の三人です。

編…華やかなクラブですね。（笑）

レ…女性部員は影の部長という噂やけど（爆笑）

編…今年は、一年生がたくさん入部したんですね。

レ…一年生がようけ入るのは毎年のことやけども、昨年ばくちもこれくらいで（十数名）、結局残るのがこれくらい（六名）、今年はずっと一年生が残ってほしいと思ってます。

編…活動していて、楽しい事、苦しい事、何かエピソードはありますか。

編…そうですね。

レ…自分たちで、エンジンをオーバーホールしたり、車体を修理するのは、苦労するけれど、修理したクルマが調子良く走ると嬉しくてしかたありません。

レ…でも本当にうれしいのは、オフィシャルです。バイト料がでる時はいいけど、ボランティアの時は本当にうれしい。（爆笑）

編…オフィシャルはどんな事をするのですか。

レ…主にボストに入って旗振り、フレッシュマンレースのオフィシャルだったから、パドック内の整理や出走車両の整理もやります。

編…どこのサーキットですか。

レ…主に鈴鹿サーキットです。

編…女性クラブ員の方の感想は。

レ…とても楽しいですよ。

編…女性のクラブでの活動内容は、レ…ヘルパー的な仕事じゃなくクルマでサーキットを走行するし、活動内容での男女の差はありません。

編…ツライ事はないですか。

レ…部室の掃除がツライ。（笑）

編…次は一年生の方は、入部してからどんなイベントに参加しましたか。

レ…フレッシュマンレースのオフィシャルと瑞浪サーキットのスポー

はないですね。

レ…夜がちょっとツライです、それと朝も起きる時にツライ（笑）

編…夜のことがでたけど、夜は何時ごろまで活動しているのかな。レ…夜は十時から十時半位に終わります。

編…ずいぶん夜遅くまで活動していますけれど、そういう時ツラくないですか。

レ…でも途中で作業をやめると、翌日、収拾がつかなくなってしまうので仕方ありません。

編…作業をやっている、勉強になることは多いですか。

レ…そりやもう、実習で教わったことを実践的に使えるし、レーシングカーという教材があるから、とても勉強になります。

編…今後の活動予定と目標を聞かせて下さい。

レ…二年生の目標として、全員が国内A級ライセンスを取得する。学生選手権がフレッシュマントロフィーレース出場と予選通過が目標です。一年生は、早くレーシングカーに慣れてもらって、



鈴鹿のライセンスを取得するのが目標です。活動内容としては、十一月に行われる宇奈摩モーターショーを行い、F1やCカーなどのレースカーを展示します。

十一月には、JAF公認のB級ライセンス講習会を主催し、フレッシュマンレースの最終戦を主催します。

編…最後に顧問の拓植さんから部員の皆さんに一言お願いします。

レ…みんな一生懸命やってくれているので言う事はないが、学生生活の二年間に、レースに参加する側と開催する側、クルマを運転する側と整備する側といった具合にいろんな角度からレースを見たり経験したりできるので、そういった機会を無駄にせずに頑張ってもらいたい。それと、みんなには早くF1ドライバリーになってもらってARCNを有名にしてみたい。（笑）

編…拓植さんの、アリガタイお言葉をいただいたところでインタビューを終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

## 平成4年度

## 事業計画について

事業担当 大脇 澄男

今年度の事業計画のねらいは十八歳人口の急激期に向けて魅力ある学園づくりに貢献することである。先づ我々にできることは、組織の一層の強化と会員相互の連帯を深めることである。

念願であった愛知支部が去る四月二十六日に設立された。愛知に文字どおり橋頭堡が築かれたことによって組織に一段と厚みが増した。大学当局の学友会に対する見方も変わって来ることだろう。この

上は、更に静岡、長野に是非とも支部設立を果したいところだ。

さて大学当局の事情を反映して長らく途絶えていた大学当局との懇談会も六月十四日に開催することができた。中村理事長の後を継いだ宮本新理事長は、日刊自動車新聞の中で、自動車短大の将来性について「十八歳人口減少の影響は少ない。悲観材料はない。」と断言している。我々としてもそれを信じて、ともに手を携えて母校の発展に寄与すべく決意を新たにした。

かくのごとく本年度の事業計画

は会員の努力と協力によって順調に展開されている。

残されている課題のうち特に力点を置きたいものとして、講演会の開催と準会員との懇親会開催、それに開学二十五周年記念事業への取り組みがある。これらについても是非成功させ、学友会活動に新たな展望を切り開きたい。会員のみならずなお一層のご支援ご協力をお願いする次第です。

## 「OB近況報告」募集

学友会員の皆様方におかれましては、各界にて御活躍の事と思います。

そこで、この学友会会報において、皆様の活躍の様子等を「OB近況」として掲載しております。この会報は、年一回の発刊ではありますが、「OB近況」のコーナーを皆様のコミュニケーションの場として利用していただきたいと思ひ原稿の募集をしています。

つきましては、学友会事務局に電話もしくはハガキをいただければ、こちらから原稿用紙を送らせていただきますので、是非御一報下さい。

(宛先) 中日本自動車短期大学内

学友会事務局宛

## 1990年度決算書

| 費 目     | 収 入 の 部    |            |       |
|---------|------------|------------|-------|
|         | 予 算 額      | 決 算 額      | 率     |
| 前年度繰越金  | 23,706,092 | 23,706,092 |       |
| 会 費 収 入 | 14,000,000 | 14,180,000 | 101.3 |
| 事 業 収 入 | 100,000    | 387,000    | 387.0 |
| 同窓会参加費  |            | 123,000    |       |
| 預 金 利 息 |            | 90,951     |       |
| 雑 収 入   |            | 7,000      |       |
| 合 計     | 37,806,092 | 38,494,043 | 101.8 |

| 費 目     | 支 出 の 部    |            |       |
|---------|------------|------------|-------|
|         | 予 算 額      | 決 算 額      | 率     |
| 会 議 費   | 1,500,000  | 528,873    | 35.3  |
| 活 動 費   | 300,000    | 89,040     | 29.7  |
| 印 刷 費   | 1,000,000  | 1,015,448  | 101.5 |
| 旅費・交通費  | 2,000,000  | 659,040    | 33.0  |
| 補 助 費   | 200,000    | 100,000    | 50.0  |
| 通 信 費   | 1,000,000  | 819,806    | 82.0  |
| 特 別 企 画 | 2,000,000  | 1,332,670  | 66.6  |
| 記 念 品   | 2,500,000  | 2,484,669  | 99.4  |
| 人 件 費   | 100,000    |            | 0.0   |
| 事 務 費   | 200,000    | 363,819    | 181.9 |
| 積 立 金   | 6,000,000  | 3,000,000  | 50.0  |
| 予 備 費   | 200,000    |            | 0.0   |
| 翌年繰越金   | 20,806,092 | 28,100,678 | 135.1 |
| 合 計     | 37,806,092 | 38,494,043 | 101.8 |

1991年7月31日

会 計 桜山一倉

## 1990年度 会計監査報告

監査の結果、一部帳票類の処理に改善の余地があるが全体として、適正な処理がなされていることを認めます。

1991年8月31日

監 査 佐 藤 一 夫

監 査 桜 谷 興 道

## 1991年度 予算書

| 収 入 の 部 |            | 支 出 の 部 |            |
|---------|------------|---------|------------|
| 費 目     | 予 算 額      | 費 目     | 予 算 額      |
| 前年度繰越金  | 28,100,678 | 会 議 費   | 600,000    |
| 会費収入    | 14,000,000 | 活 動 費   | 300,000    |
| 事業収入    | 300,000    | 印 刷 費   | 1,200,000  |
| 預金利息    | 90,000     | 旅費・交通   | 800,000    |
|         |            | 補 助 金   | 200,000    |
|         |            | 通 信 費   | 1,000,000  |
|         |            | 特 別 企 画 | 2,000,000  |
|         |            | 記 念 品   | 2,500,000  |
|         |            | 人 件 費   | 100,000    |
|         |            | 事 務 費   | 400,000    |
|         |            | 積 立 金   | 6,000,000  |
|         |            | 予 備 費   | 200,000    |
|         |            | 翌年繰越金   | 27,190,678 |
| 合 計     | 42,490,678 | 合 計     | 42,490,678 |

# 大学祭

学生自治会執行委員長  
茂木順子

本年度の大学祭の日程は、十月二十四日から二十六日の三日間で行なわれます。大学祭実行委員長も決定し、少々遅れぎみでありますが、内容を検討しているところであります。

前夜祭のアマチュアバンド。映画・プロコンサート。各クラブ・同好会の個性豊かなモギ店や催し物。我が校ならではのレーシングカー・ショー。一年生参加の体育祭・球技大会。大学祭を締め括る後夜祭。また昨年行なわれなかった新企画など多数のイベントも計画しています。

本年度は第二十六回の大学祭。四半世紀という長い歴史を築き上げてきた先輩方の努力を見習って、学生自治会としても今年の大学祭を成功させ、さらなる飛躍をしていきたいと思っています。

また、開学以来初の女性の学生自治会執行委員長であり、学生数千五百四十数名と今までの最大数の上に立つことになりました。ウィマン・パワーもどこまで発揮出来るか不安もありますが、精一杯が

んばりたいと思いますので、学友会の先輩方々にも多数のご協力の程お願い致します。

大学祭の当日には、皆様方多数の御来学をお待ちしております。



大学祭実行委員

## ＊＊通信欄＊＊

卒業後八年目で滝宮モータースを経営し自動車販売及び修理を本業とし自動車業界に貢献しています。 第四期生 南 健司

平成二年十二月三日より日産自動車にてミッションケースの鋳型保全をしています。短大時代に学んだ勉強を生かして毎日色々な事を学び頑張っています。当日の担任の先生は現在学長になられた宮岡教授で哲学を教わったことを今でも覚えています。

第十一期生 大見 登

宮岡先生が学長に就任されたの

ですね!!確か宮岡先生は四国の徳島出身との記憶があります。

私も徳島出身です。なんか親戚の人が学長になられた感じでとても嬉しいですよ!!

第十八期生 栗山法則

写真で見た新しい学校には大変驚いています。今度いつか自分の目で見てみたいと思います。

第十八期生 黒澤修一

日産プリンス名古屋販売(株)入社時日産チェリー中部販売(株)合併より平成三年二月アイシン・エイ・ダブリュ(株)技術部信頼性試験課へ転職しました。

第二十一期生 諸橋 格

バイク・車が好きなき息子が中国を卒業し横浜の今の会社に就職して三年目になります。親としては遠くに勤めてしまい、淋しい思いをしています。大好きな車を製作する仕事『トヨタのレース・カー(トムス)やモーターショー用の車等を製作している会社』で頑張っている様子なので遠くから声援を送っています。

第二十一期生 浅井重人

平成二年度第三次隊にて、タンザニアへ派遣されました。自動車整備士として二年間の予定です。

第二十二期生 木村哲也

## 二十周年記念 会員名簿 のお知らせ

二十周年記念事業の一つとして作られた二十周年記念名簿を販売しています。一期生から二十期生までの名簿です。希望者は学友会事務局まで申し込んで下さい。(三千元送料込)

この名簿は会報を発送する住所です。住所などの変更がありまして同封のものがきでお知らせ下さい。また知人で会報の届かない方をご存じの場合もお知らせ下さい。封筒の住所の右下の番号が整理番号です。

## 編集後記

会員の皆さんお元気ですか。学友会報第十一号をお届け致します。今回は、従来よりもさらに、母校の今の姿を御覧いただけるように写真を多く採用致しました。もしかすると、昔を懐かしく思い出せる場所があったかもしれませんね。また、中国研修生の両先生方にも原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。

会員の皆さんの近況、御意見等をお寄せいただければ幸いです。最後に、発刊にあたり御協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げるとともに会員の皆さんの御活躍を祈念しています。



会報委員